第３回学会報告記　（第 55 回日本脈管学会総会）

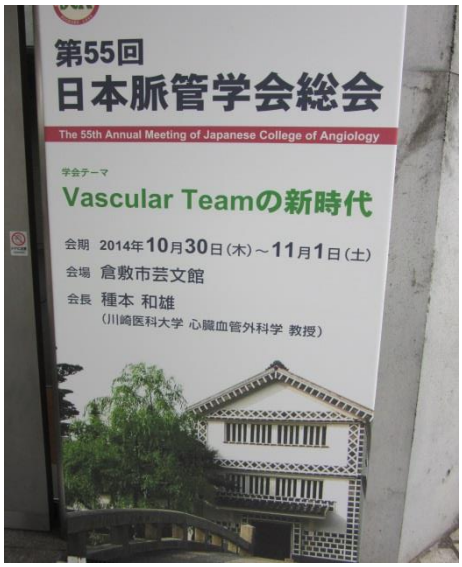
第 55 回日本脈管学会総会が 2014 年 10 月 30 日から 11 月 1 日に開催されました。

脈管学会は、脈管疾患の診療、研究に携わる血管外科、循環器内科、放射線科、病理、生理など多領域から構成される学会であり、他科の先生と議論できる貴重な機会となります。

1 学会会場

新大阪駅から倉敷駅まで新幹線と電車を利用し、移動しました。倉敷まで意外と近く、1 時間半程度で到着しました。宿泊は倉敷駅周辺の施設を利用し、学会会場である倉敷市芸文館は徒歩圏内でした。

（倉敷市芸文館）



2 発表

ランチョンセミナー

飯田修先生

【鼠径靱帯以下動脈領域に対する血管内治療の現状】

JCAA 選考発表

白記達也先生

【膝下単独病変有する重症虚血肢における血管内治療後の創傷治癒遅延因子およびリスク層別化による検討】

パネルディスカッション

白記達也先生

【膝下単独病変有する重症虚血肢患者に対する血管内治療およびバイパス術後 2 年以内の死亡予測因子によるリスク層別化】

一般演題

谷仲厚治先生

【組織欠損有する重症虚血肢の責任血管病変分布は血管内治療後の予後に影響しない】

上記 4 つの演題を発表して参りました。いずれの演題も会場参加者、座長から多くの　質問を頂きました。血管外科の先生から踏み込んだ内容の質問を頂くことが多く、我々循環器内科医として今後の課題が明らかになり、大変有意義な発表となりました。

3 学会後活動

倉敷といえば美観地区ということで、学会会場から徒歩圏内でしたので観光もして参りました。古きよき町並みと倉敷川沿いの柳が綺麗であり、ゆったりとした時間が流れていました． 短い時間でしたが、心が癒されました。

4 まとめ

循環器学会や心臓病学会などと異なり、血管外科を主とした他科の先生と議論することができ、非常に有意義な機会となりました。今後もこのような他科の先生が多く参加される学会に積極的に参加し、当院での日々の臨床を検証しつつよりよい診療を目指して行きたいと考えております。